



原油価格急騰で株価急落

米国とイスラエルによるイランへの軍事作戦が長期化する懸念が高まったことから、原油価格が急騰しています。これを受け3月9日の株式市場は、日経平均が一時4,000円超下落するなど、大幅安となりました。この背景や注意点について確認しておきましょう。

<POINT>

- 米国・イランとも強硬姿勢、紛争長期化懸念強まる
- ホルムズ海峡封鎖が長引くと懸念から原油価格が急騰
- 株価は乱高下、当面は原油価格をにらんで不安定な展開か

経済・金融市場への影響は？

- 米国・イスラエルとイランの紛争について、トランプ大統領が6日、イランの「無条件降伏しかない」と停戦のハードルを上げた一方、イラン側は8日、攻撃で死亡した最高指導者ハメネイ師の後継に同師の次男のモジタバ師を選出したと発表、反米強硬路線の継続を鮮明にしており、**紛争終結がさらに見通せなくなりました**。
- このため、イランによるホルムズ海峡の事実上の封鎖が長引き、中東産原油の供給困難な状況が続くと見方から、**原油価格が急騰**しました。WTI原油先物は日本時間9日に一時120ドルに迫るなど、年初の50ドル台半ばから2倍の水準に上昇しました。
- 原燃料コスト上昇や原油供給そのもののリスクなど経済への影響が懸念されることから、**9日の日経平均**は一時4,000円超下落、終値でも2,892円安と**急落**しました。しかしその後、G7が石油備蓄放出を議論するなど協調して動いたことなどから**原油先物**は一時80ドル台まで**下落**、これを受け翌**10日の日経平均**は急反発しています。
- 株式市場は**当面、原油価格の変動を受けて不安定な動きが続く恐れ**があります。ただ9日の急落で**一定の原油高リスクを織り込んだ**と考えられること、いずれ**原油価格が落ち着けば投資家心理の改善が期待**されることなどから、短期的な価格変動に一喜一憂し過ぎず、**長期目線で冷静に投資**を続けることが重要です。

【原油先物価格の推移】



※上記は過去の情報または作成時点の見解であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

- 本資料はちばぎんアセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。
- 本資料に記載された当社の意見ならびに予測は資料作成時点のものであり、予告なしに変更することがあります。また、本資料は当社が信頼できると考える情報源から得た各種データなどに基づいて作成されていますが、その情報の正確性および完全性について当社が保証するものではありません。本資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを示唆あるいは保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。
- 本資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。